



持 18
33
59

圖書印

繪本右圖記五篇卷之十一

目録

小糸氏家系之活

小糸氏親系之若云之得とる圖

秀吉云馬取活小田原活

馬取活若修之難風より入國

秀吉云大軍美小田原活

河田八女於勝十去浦が大指物大母衣の圖

三宅平定後次郎助と討圖

山中城落致之活

博識書

後醍醐兵衛なる名の國

堀秀政智略の國

保連政宗系小田原治

秀吉公政宗と引て陣中を足せりゆゆ國

小田原陣中早致治

小田原の陣中踊り國

繪本右衛門記五篇卷一

小條氏政治家系

室は坂本七代の大守相... 小條氏政治家系... 室は坂本七代の大守相... 小條氏政治家系... 室は坂本七代の大守相... 小條氏政治家系...

其虚^{きよ}に^し城^{しろ}を^{まも}り^て討^うつ^て終^つに^つ兵^{へい}を^おし^り小^こ條^{じょう}に^つつ^て且^{かつ}利^りを^とり
 小^こ條^{じょう}早^{はや}雲^{うん}入^いる^に号^{ごう}以^{もつ}日^{にち}九^く年^{ねん}相^あ及^じを^て伐^つて小^こ田^{でん}系^{けい}の^ち城^{しろ}に^つつ^て討^うつ^て
 後^{のち}柏^{はく}系^{けい}院^{いん}永^{えい}正^{しやう}十^{じゆ}三^{さん}年^{ねん}子^し息^{しやく}系^{けい}系^{けい}を^たま^は氏^し綱^{かう}と^つつ^て三^{さん}浦^{うら}入^いる^に道^{みち}す^は荒^あ
 次^{つぎ}即^{すなは}義^ぎ志^しと^つ殺^{ころ}して新^{あたら}井^いの^ち城^{しろ}を^{接^つは}日^{にち}十^{じゆ}六^{ろく}年^{ねん}八^{はち}十^{じゆ}八^{はち}年^{ねん}丁^{てい}未^み子^し息^{しやく}氏^し
 綱^{かう}威^い勢^せ盛^{さか}ん^んす^て又^{また}其^{その}子^こ氏^し綱^{かう}と^つつ^て終^つに^つ武^ぶ名^な勝^{かつ}國^{こく}と^つつ^て其^{その}子^こ氏^し綱^{かう}と^つ
 氏^し綱^{かう}天^{てん}文^{ぶん}七^{しち}年^{ねん}上^{じやう}杉^{すぎ}氏^し綱^{かう}を^{補^おす}憲^{けん}政^{せい}と^つつ^て氏^し綱^{かう}河^か城^{じやう}と^つつ^て我^{われ}い^は大^{だい}切^{せつ}勝^{かつ}憲^{けん}
 政^{せい}國^{こく}と^つ捨^すて^つ城^{しろ}後^{のち}又^{また}逃^{にが}る^に是^{こゝ}に^つつ^て氏^し綱^{かう}東^{とう}七^{しち}年^{ねん}と^つつ^て終^つに^つ氏^し綱^{かう}河^か城^{じやう}に^つつ^て
 長^{なが}之^の氏^し綱^{かう}元^{げん}龜^き元^{げん}年^{ねん}小^こ田^{でん}系^{けい}の^ち城^{しろ}に^つつ^て卒^すす^に其^{その}子^こ氏^し綱^{かう}を^たま^は氏^し綱^{かう}政^{せい}出^し討^うつ^て
 田^{でん}系^{けい}の^ち城^{しろ}に^つつ^て其^{その}子^こ氏^し綱^{かう}と^つつ^て終^つに^つ氏^し綱^{かう}河^か城^{じやう}に^つつ^て要^{よう}害^{がい}と^つつ^て構^{かま}へ^る武^ぶ威^いを^{震^{ふる}お}して^つ
 王^{わう}命^{めい}に^つつ^て信^{しん}長^{ちやう}と^つつ^て世^よの^ち討^うつ^て終^つに^つ氏^し綱^{かう}河^か城^{じやう}に^つつ^て令^{しやう}隴^{ろう}川^{せん}一^{いつ}並^{びやう}

と^つつ^て我^{われ}度^たに^つ及^{いた}ひ^て城^{しろ}を^{まも}り^て討^うつ^て終^つに^つ兵^{へい}を^おし^り小^こ條^{じょう}に^つつ^て且^{かつ}利^りを^とり
 小^こ田^{でん}系^{けい}の^ち城^{しろ}に^つつ^て其^{その}子^こ氏^し綱^{かう}と^つつ^て終^つに^つ氏^し綱^{かう}河^か城^{じやう}に^つつ^て要^{よう}害^{がい}と^つつ^て構^{かま}へ^る武^ぶ威^いを^{震^{ふる}お}して^つ
 王^{わう}命^{めい}に^つつ^て信^{しん}長^{ちやう}と^つつ^て世^よの^ち討^うつ^て終^つに^つ氏^し綱^{かう}河^か城^{じやう}に^つつ^て令^{しやう}隴^{ろう}川^{せん}一^{いつ}並^{びやう}
 其^{その}内^{うち}に^つつ^て我^{われ}度^たに^つ及^{いた}ひ^て城^{しろ}を^{まも}り^て討^うつ^て終^つに^つ兵^{へい}を^おし^り小^こ條^{じょう}に^つつ^て且^{かつ}利^りを^とり
 小^こ田^{でん}系^{けい}の^ち城^{しろ}に^つつ^て其^{その}子^こ氏^し綱^{かう}と^つつ^て終^つに^つ氏^し綱^{かう}河^か城^{じやう}に^つつ^て要^{よう}害^{がい}と^つつ^て構^{かま}へ^る武^ぶ威^いを^{震^{ふる}お}して^つ
 王^{わう}命^{めい}に^つつ^て信^{しん}長^{ちやう}と^つつ^て世^よの^ち討^うつ^て終^つに^つ氏^し綱^{かう}河^か城^{じやう}に^つつ^て令^{しやう}隴^{ろう}川^{せん}一^{いつ}並^{びやう}



馬船
河原
舟
七
雅
凡
二
遠
小
國

真言宗

此は... 衆議一... 氏親一人と... 政... 氏政... 氏親... 衆議一... 氏親一人と... 政... 氏政... 氏親... 衆議一... 氏親一人と... 政... 氏政... 氏親...

秀吉云馬松原小田原

秋... 小田原... 氏政... 氏親... 衆議一... 氏親一人と... 政... 氏政... 氏親...

茂如... 上... 氏政... 氏親... 衆議一... 氏親一人と... 政... 氏政... 氏親... 衆議一... 氏親一人と... 政... 氏政... 氏親...

構谷... 氏政... 氏親... 衆議一... 氏親一人と... 政... 氏政... 氏親...

其後以上洛せしが諸國の大名悉く其不義と怒り我命を討て
 討て民政を伐んと欲し其勢を遂に大軍を率て是と討んに
 其河を名て合きを得んや踏崩し粉のぶくめんが我軍の内
 あり汝等皆いふるもと信されが西人平伏して其辱を感し
 々々叔野教書小回京は前しが民政を乞ふと云ふ笑ひ亦我を
 才智良孔明も勝りたりと云ふがのりく我も悔ふと云ふ先我
 の地は乃ち老に箱根の天領あり味方遂率よく討つと守らば亦我
 の中軍一と向ふと云ふも我も怒りるめんや其上踏崩し百里何ぞ
 遂に討て入れをせん老翁して年月を歴らん内より我の汲けぬ
 率いふと云ふ昔年我軍糧を我方の軍兵を遣して東國に向ひけり

其の別者又我の命を討て迎給ふ我も怒りて又を如く力に
 着け國を率て軍率して渡りて一亦我の屬をせん難きよ水
 上やたるを我も亦我も云ふ小宗を合せると候り然し十月廿日
 我軍河内を渡りて小宗の編目をあげて粉を飛せ置を我
 我も今もいふと小宗を率てせんせは武運の傾きと云ふや我も
 多しと云ふ只馬目内駐隊ののりく空流して居りたる先は乃ち我
 小宗が津伏の依りて我も十一月の初め諸國の大名又檄を遣して
 軍兵を遣し長宗大義を痛と兵糧を切ら定め我の河内地
 抄いぐ米二十万石多内を乞集り然し我も我の河内には兵糧あり
 備付進軍勢配多しと云ふ又我も二万石を乞て修勢尾張三河邊に
 強國の糧米一萬石回京進上は依りて且馬目二百艘修豆の



河田八女
大指物
大母衣
の圖



卷五

...て... 龍... 浪... 三... 愚... 疎...

秀吉大軍攻小田原

...年三月朔日...

...大納言... 山陽... 余... 小田原... 大馬印...

多初のれはとて小條花婿門を氏勝同宮を前守好る朝倉能登
守とら中の城を籠らせ松田が副おとぬ其府氏政三人を振きち力
一腰で是と引せ且三長に向ひやるる各由おにぬいし教多家功乃
勇士うれは分る大率の籠城を任はべき之を肯率分と許分
と戦功を励まらばと申すれは同宮を前守進と出く若必心と勞し
給ふゆめづしに若戦ひ急迫しよふ我番討死若君を殺し
なんと云座の者勇士其勇を賞嘆に朝倉能登守退く人に若て
小條家の減しよ遠きにおじら中の城の要害其跡にして大
兵のあり防ぐべし今氏政旧臣人をい守らしあいの引け居と
棄報とて氏勝好る討死せば我何を独りせんや嗚呼悼哉と歎けが
深し小條家がこゝより叔氏政の牙小條英徳守氏親として並山の

城を守らせ武刀岩榎の城小條英房守氏房が居城うれと氏
房小田原小籠城任遣と兵房妹尾下綱守片桐源右左衛
門守岩榎の守らせり其外任相模武義と時下時と総下総
七ヶ國の城と二勇名の子士と龍並小田原の後浩と後「惣大納小條
氏政の子息氏並氏輝等が嫁めして右河左馬次皆川の城守其外
松田去乃守せ方がはるる福徳遠と山角鈴木信久將時石を富
永等の二族及び七ヶ國の軍兵に力余小田原の城と指籠り城を
備し備と多くはに方一里乃大城と弓鉄炮をいし構へ兵糧玉を
教多徳秀等もほとけりけり又箱根山にまはしと総おふ系新助不
お部をまをせる余入徳又飛石を透向方く構へ敵をく構へ
む上方の軍勢羽軍の守とらんいささけけ切不と何者ぞ振べきと



三宅平太
後継小治郎
を討つ
國



真田五郎卷九

中野にてありし大軍二千余万勢周の要山岳と勅大地
東に勢ひを奪ひて後より経てしれりなり雄の若武者等とつこ
谷を飛越しりしに三谷を各二谷三谷けより難く勢の後馳出
周成地つて前後より奪まされし東國勢振とお後「一丈一せ
小田原にて遊ばりしに合戦小條の勢未だひみられてたろ
とくわく刃のみなり

山中城落敷

去後よと方勢前根の固と一息は折崩勢ひ猛り押寄り
秀吉云候て令と下し給ひ先不くに構う枝城を奪取し小田原
と禰ははして押寄しは平を小田内府信雄と大將と勝次
小六郎福徳左衛門を更細河支八郎蒲生飛騨守中河直馬守

森右近を更に万余人並山の城を圍めし近に中納言秀次卿と
大將と次左衛門中村式部お捕一氏田中兵部を更吉政福屋
刀先生を時一柳守守守其勢は万七万余人し中の城を攻に
し中の城は松田右兵衛を更小條左衛門を更同宮を更守朝倉
守守目は余の大軍と奪ししせは中の城門をさしりしき水
條左衛門を更氏勝三子余人一文字に切てお奪ひの大軍と追ひ入
し門射を他いししと戦ふは氏勝が後士は渡瀬小次郎なり名
なり兵三勝美若よりと出苗原の神は羽織を是令の切刻の幣
と腰に其より白母衣とりけ虫巻横之者来る款三勝実落給
勇んで馳来るお方の方お秀勝の勢三宅平右衛門の強
を送し小田原の神は風車の立抽て血を抽んで小次郎助を



渡辺
勘三郎
の
團
づ

真顯記五篇卷十一
真顯記五篇卷十一

目がけ飛つて中へはつたり合はば河原け秘術と居て
 敵の目まはしり物三宅が武藝や勝らん一獲み小
 次郎助を突殺し短刀と換へ首を搔味方の陣へまじりけ
 るが母衣とほりたさるる後までの恥辱をたてて母衣と
 しきて退きさるる若其勇壯を感服し三宅は討二十三又秀勝の
 志の着と相違ふの事とやたる秀勝はよまひ一番槍といひ相討の首
 といひを以てするさる名状と際受せしは秀勝の奉陣中をいこ
 せりば中村下綱の是と披露は秀勝の便「百」は終て首に記
 せし終ふは秀勝が二番首越軍いづの三番と記されは相
 討の着は母衣とほりたさるるい志始へ秀勝も感服し三宅は
 全張と多し勝り秀勝は相討麻の槍糸は秀勝十面を下

される小條氏勝は若くは我れはかくしとて城は籠進は秀勝
 はせんと操るに城中より砲を雨のどくは砲は反か面り
 き中うたててその日の軍は止まり其夜雨車壯と隨て降来り大風
 林と倒し相討はるる不考る中村武部が捕一氏かおはは後迎助
 秀勝一雄とて智深勇猛の者あつたつらけ凡雨と候りに城
 中へ懸ひ入一番首の事名状とやとて目以好する事毛目本
 月の大指物を隠し持兵士と登り降と城て三の曲論は再び入夜の
 曉雨り小止し中村の指物を押さくもひげけり切てうれは城
 兵とて大まに驚き後血城らん討多しと十八六銃槍とて突来
 と勲兵湯眼は角とては城の一番首なり中村武部が捕が家人後迎
 勲兵湯一雄とては城と大考ふりつと考来る難兵十人余り

やうりてまに
極秀政
香墨
の國



の中に突如として中是とてそくたまはし發ぎ後辺一人のあひしり
 此熱の大勢隊中に終り入るると狼狽て二の郭と引入り妻子の陣
 中後辺がけり換と知りうらん中村堀尾が軍勢二百騎をうり啼と喚
 て入り入く助六傷りかき合せんぐ又薙之れに討り若敷を
 知らばとて上へ強勁に城お小條九條門氏勝同宮朝倉爲士率と
 けりを中村り突く出火と散して戦へりあまの熱軍に万余人
 公方より系込さんぐ又妻まられが氏勝今の是とてそひ遣兵五
 百余人を遣り初めに中村田中堀尾が勢とまらしうに切用き二三
 度身退崩し又十八歳と終り討死しうらん首の中村が勇後一色乳
 母と相と獲り向宮朝倉を討死せんと勇じうらん小田原の城
 心りうらん一老家と引合人小生死を傳せんと小田原にて落

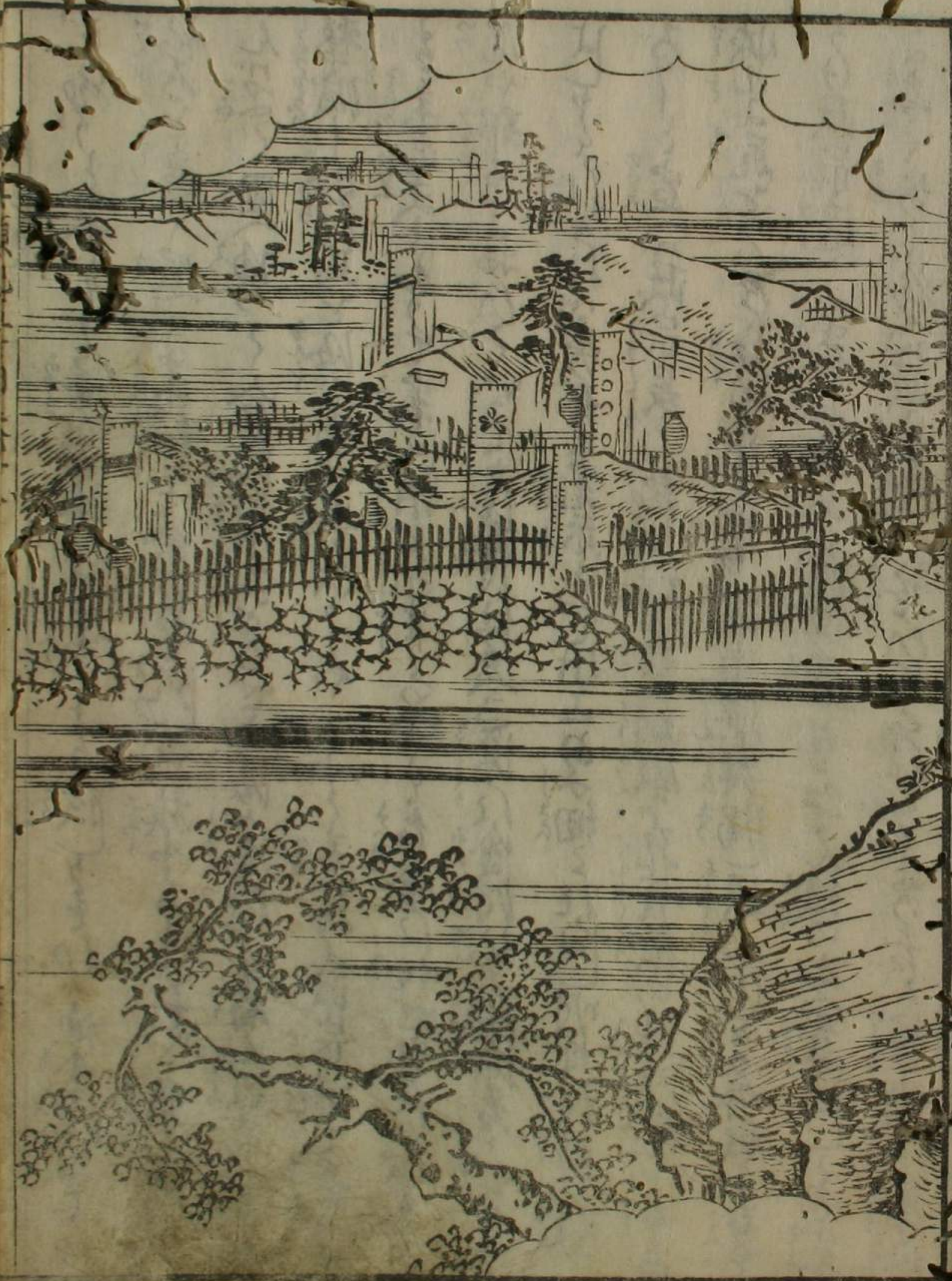
約々然とそくたまはし市中の城邊は落送後辺ごひおれ首百に
 十余中村ごひ二百余級殿下の實修は傳へるが秀吉の感懐也
 ううに當り弟一の秀吉とて感懐を傳りうらん

伊達政宗系小田原

日に序秀吉の軍と進り湯本の吉光寺の中陣と居り是に方
 引合り石垣に懸りて構へ長陣のゆへとは軍勢と分りて宮
 城口湯本は竹浦はるの城を攻めせ給ふと秀吉は悉く討勝三城
 りよは屠破る小條の守り相損發ぎ小田原の城へ進入す小田原
 の城中餘防戦の用意とては必死と定めて籠城し秀吉の軍に進
 んで小田原の城を十番に圍りて日夜攻め入りつて攻給
 へと城中は秀吉の軍とては必死と定めて籠城し秀吉の軍に進

糧を運ぶの目録ありはらうる小箱根の陸路運送は勞煩
 軍車運送はらうる小畑を備へて政人を伴は相撞後河邊
 には牛と多し賞給し兵糧を車に積み牛に牽せし運ぶ程は
 士卒勞せし運送甚自慢に思はれし諸國の大名面々牛と求む
 狼道の短いとのがれはらうる秀吉も畑を才智と稱賞はしく馬を
 常備し畑を備へて秋風雨烈しく天地も晴らじふ畑秀吉九
 右の進士は向い今宵は必資人の来るべきに我士卒の馬鞍兵糧と
 資人の資具をばらうり我自負すと伺ひてはしとらう士卒は言と
 て寝者はしを夜三夜と陣中に見ゆらう程に地の陣は多し
 一課より秀吉が陣に渡り人曾て入ら然り先り秀吉の御
 一達殺し獲て捨り多畑が妙法はらうるさうの附り奥及の

大守伴達元系は政宗秀吉の威に服し遙く奥及を去て城後
 には甲斐をこき箱根より秀吉の幕下は居せんとしは附上
 方の諸將は皆いさひ多しは政をこころの難きはあはれ小田原端て
 後には奥及の征伐を以て奥羽の國遠く兵多く容易に難う
 ばしと兼くといはれはしは不承し政宗軍門は来りて幕下とせん
 ば陣中といふ月夜なき御の哉と候て秀吉の言はくはとやとを
 秀吉の言はくは外の政宗は係を絶り人を以て政宗をせら給ふ
 と候は勝依所義を先達て皆聘役を絶て我軍旁と訪はれ
 又政宗一人は幕下と胸中と高き我は政の兵勢と候は我軍
 級退の言はくは今おはれ来るはしは政は諸國端り小田原
 城に又見寄らばはらうるはて我幕下とせんを承むる其言は



身顯言五篇卷十一

十一



小田の系
乃中
踊る
の
園

五篇卷十

九

以回系對陣中堅守御出合... 略し交門六月の中旬... 内府信雄小回系乃城中... 飲抽連りし心よく... 且止く諸軍安堵して... 視したる也... 考ふの陣中何と... 在陣く酒肴と湯ひ... 本陣より... 巨せし者乃...

小... 女... 面... 又... 谷... 始...

